

神戸〈ゆうゆうの里〉入居者インタビュー

「もう10年前から住んでいる気分です」

よしの きよつぐ
吉野 清嗣 様 (69歳)

ランニングコストが大切

入居検討のきっかけは、一人暮らしだったので何かあった時に、息子には迷惑をかけたくないと思って66歳からホーム探しを始めました。ゆうゆうの里は、長年の実績と、共用施設が素晴らしい事に魅力を感じ、その上、ランニングコストが安い！入居金よりも、これから元気で長生きしていく上で、やはり毎月の支払いは後々ともおおきな違いがでると思ひ、神戸〈ゆうゆうの里〉に決めました。

本当に住み易い街です

北区は、不便そうな話を耳にしていたのですが、何のことはない。前に住んでいた垂水区よりもよっぽど便利で、徒歩15分圏内にスーパーが5つもあり、便利で住み易い街です。部屋も日当たりがよく、暖かくてほとんどエアコンを使っていません。セーターもこの冬、一度も着なかった位です。

食堂で、ごはんおかわり3杯!

食堂は旬の料理が食べられて、めちゃくちゃオイシイ！！ごはんもおいしくて必ず3杯おかわりしています。「郷土料理フェア」なんかは、グルメ旅行をしている気分になって最高です。「豚肉入りの粕汁鍋」を初めて食べて、感動するほどおいしくて、食事サービス課のスタッフにレシピをもらいました。企業秘密だったのかなあ（笑）

普段は、散歩がてらスーパー巡りをするのも楽しくて、自炊もしているのでそのレシピで自分でもおいしくできました。

五十肩がよくなりました



五十肩の運動

お天気の良い日には、毎朝、菊水山へ行っています。「しんどいやめようかな」と思う日もありますが、必ず帰り道に「気持ちよかった～行ってよかった！」という爽やかな達成感に包まれます。日中は、里のアスレチックジムやプール、行事のコンサートを聴きに行くのも好きです。週に2回はしあわせの村でテニスをします。「アスレチックジム」では、五十肩で痛みがあることを相談したら、良いトレーニング方法を教えてくれて、3ヶ月ほどで腕もあがるようになって本当に感謝しています。親身なトレーナーが、ひとりひとりをよく見てくれているというのがとても良いですね。

「早く入った方が良い」は営業文句だと思っていました

検討を始めたときには、「老人ホームに入る」というのはすごく“ネガティブ”なイメージがありました。募集担当の人が、「入居するなら早く入った方が良い」と説明していたのも、営業文句だと思っていました。ところが、実際の生活は、何の束縛もなく自由で、「ホームに入居を決めているなら、絶対早く入った方が良い」と僕もそう思います。検討当初は、入居金だけみたら、立派なマンションが十分買えると思っていましたが、そこにはハード面しかありません。ゆうゆうの里は、入居すればたくさんの共用施設を一生利用する事ができるし、季節行事も環境も食事もいい。そして、生活サービスや終身の介護、「終の棲家」としての安心があります。このソフト面を見ると心から納得です。



ジムの後はプールで泳いでいます

僕は、5月で入居して1年になりますが、10回以上色々なセミナーや体験入居に来ていたからか、すぐに馴染む事ができました。とても充実した毎日を過ごしているので、もう10年前から住んでいる気分です！！